

乳癌から立ち直る

—CL News letter by Paul Kroner から—

David K. Reynolds, Ph.D.
dkreynoldsjapan@gmail.com (日本語対応返事英語)
dkreynolds@juno.com (英語)
<http://constructiveliving.org> (英語)
<http://constructiveliving2.weebly.com/>




CL インストラクターのための初期の会報、“Rolling Mist”は騰写版印刷物で、各人に郵送されていました。次の記事は1988年号に掲載されたものです。

—J.W.さんからの手紙

『1月初めに乳癌がわかり、3週間前に乳房切除手術を受けました。癌は脇下のリンパ節に転移したことが判明し、これから半年間、化学療法を受けることになりました。あなたのご想像どおり、このことはとてもショックな恐ろしくて、痛い苦しい体験でした。

私の生命力が本能的に、入院期間中に、森田と内観の考えに取組み始めるよう強く後押ししたいと思います。もし、慣れ親しんだ感情中心を続けていたら、自分を自殺的なうつに追いやったに違いありません。そのかわりに、私の命を救って、お世話をしてくれた医師や病院スタッフへの深い感謝がわかる自分の能力を発見しました。なすべきことがわかる自分だと信じられることもわかりました。もちろん、今の一瞬、次の一瞬がつぎつぎと起きるように、無数の他の教えを学びました。私は細心の注意を払って、今、ここにいます。最初の化学療法の後、今週から仕事に戻りました。子供たちと私はふだんのいつもの状態に戻ったことを喜んでいきます。

医師たちや友人たち、親類らは、私の速い回復と「前向きな態度」にとっても驚いたそうです。でも「泣くとき、私は泣きます』。(アメリカ・オレゴン州CLセンター所長)

 [目次へ戻る](#)